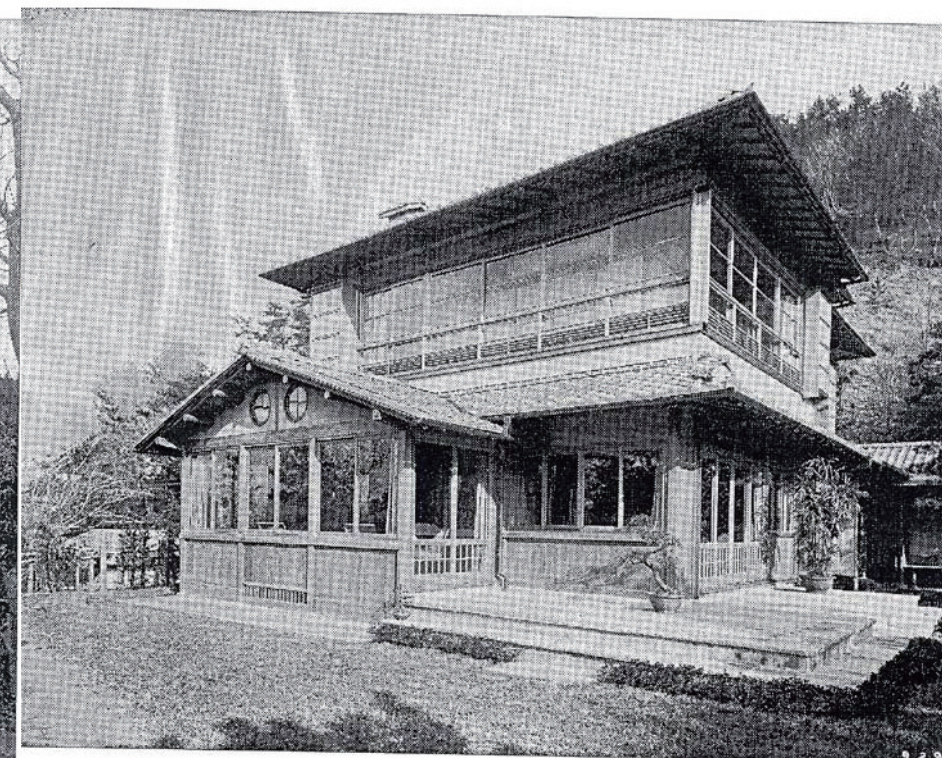




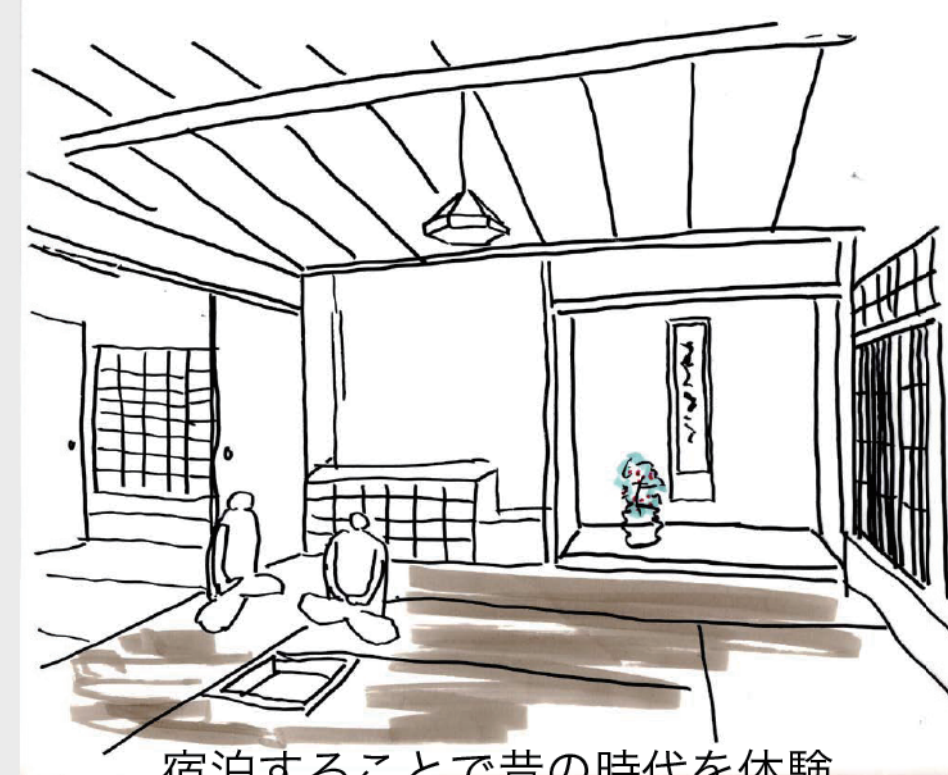
現状写真 現在活用方法が検討されている

脇村邸活用計画

昭和8年築の木造近代和風建築。外観は数寄屋だが、内部は和洋折衷の意匠を持つ。他にRC造の文庫などもあるという。
故藤瀬秀子さん（故藤瀬次郎三井物産常務取締役夫人）の逗子別宅として建てられ、その後1959年（昭和34年）に故脇村義太郎さん（東京大学名誉教授・日本楽士院院長）が購入し、次に国有財産となり財務省が管理していたが、逗子市が買い取り公園として再整備を行う方針。

逗子には多く屋敷が存在するが、屋敷の内から外の庭を眺めることはなかなか難しい。脇村邸を一般に解放することにより、屋敷の特徴である建物と庭の距離感を体験できる、貴重な施設となる。

また脇村邸を宿泊機能、逗子の人々の体験学習教室として利用することで、子供たちがこの脇村邸を使い、体験学習を通して屋敷の魅力を知ることにより、子供たちが大きくなり逗子にまだ残された屋敷の保存につながってゆくのではないだろうか。



宿泊することで昔の時代を体験

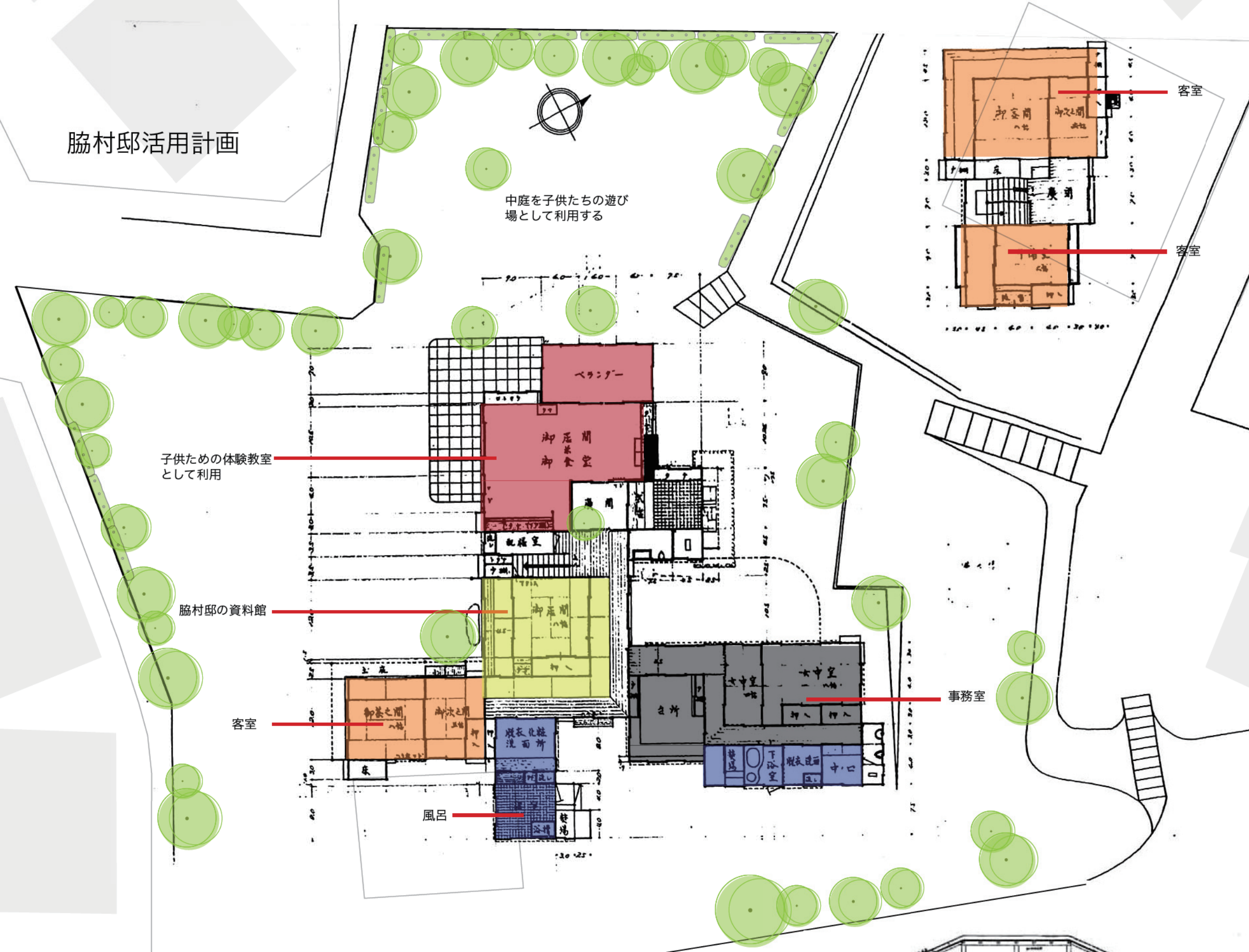


テラスでのんびりと過ごす



学習スペースとして利用

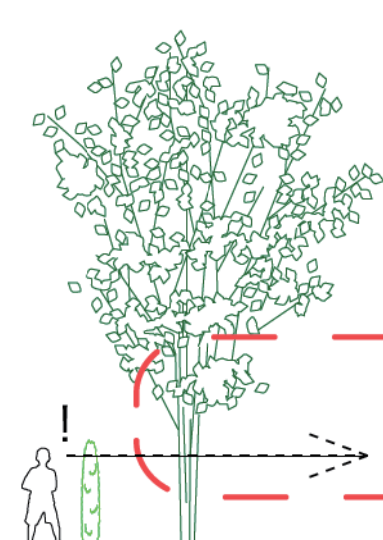
脇村邸活用計画



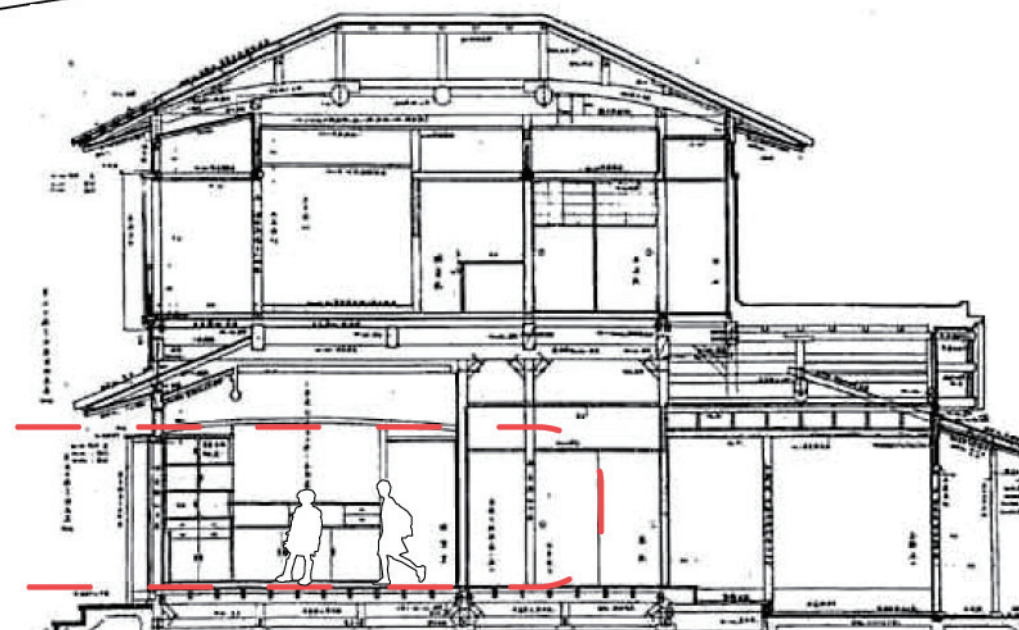
子供のための体験教室として利用

脇村邸の資料館

客室



建物内部の活動が庭にあふれ出し庭の外の路地や町に人々の輪が広がっていく



中庭を子供たちの遊び場として利用する



緑が客人を迎える



庭を眺めながら過ごす